

## 心のメッセージを受け止めて

支持的風土づくりにおいて、相手を理解するためには、言語メッセージだけでなく、非言語〔表情、しぐさ、声の調子、行動〕から背後にある感情を受け止めて共感することも大切です。そこで、今回は、自分の思いをうまく言葉で伝えることが難しい子どもへの「傾聴・受容」と「支援」の参考となる資料を紹介いたします。なお、この資料は、独立行政法人国立特別支援教育総合研究所より許可を得て掲載しました。



カノンちゃんとだいですけくんの先生は、困っている様子ですね。でも、困っているのは、先生だけでしょうか？  
2人の先生と一緒に、なぜ、このような状況になったのかを振り返ってみましょう。

## 子どもの立場になって行動の意味を考えてみましょう

**失敗しちゃうと  
恥ずかしいから行きたくない！  
でも、体育は好きなんだよね…**

お家では大丈夫みたいですが、学校に来るとおなかの痛くなるみたいです。

いつも誘いに行っているけど、授業に来ない日が増えたよね。おなかの調子が心配だね。

おなかの痛いのは、もしかしたら心理的な問題かもしれないですね。

確かに、あの時、すごく恥ずかしそうにして、急に「おなかの痛い」って言ってました。

体育の授業で、みんなの前で跳箱を跳べなかったと、落ち込んでいました。

高学年になって、交流先に慣れてきて、友達との関わりが増えてきました。本当は、体育が好きだし、交流先に行きたいと思うんですけど…。

友達が何を考えているのかがわかるようになってきたのでしょうか。それで、周りが気になり、友達の反応に敏感になっているのかもしれないですね。

カノンちゃんの気持ちに寄り添い、自分の気持ちや友達がどう思っているのかを一緒に考えながら理解を広げてあげたいです！

ただ、おなかの痛いだけではなかったんだね。周りの友達のことを気にしていたんだね。

**ぼくは、ちゃんとやっているのに…  
先生は、何で怒ってばかりなの？**

だいすけくんは、自分勝手な行動ばかりで、授業に最後まで参加できないので困ってしまいます。

そうですね。でも、だいすけくんは、なぜ、机の上に乗ったのでしょうか？

私は、だいすけくんが、先週の授業で作った教材を使おうとして、それを取ろうとしていたように思えました。

机から落ちたら危ないとばかり思って、だいすけくんが前回の教材を使おうとしていたと、考えもしませんでした。

だいすけくんは、伝えたいことがあるけれど、先生にわかる方法で伝えることが難しいのですね。

「やだ！やだ！」と叫んでいたのは、教材を取ろうとしていたのに、私が止めようとしたので、教材を「取りたい」ということを伝えなかったのですね。

だいすけくんの思いが、相手に伝わるように指導していきましょう。だいすけくんは、学習意欲が高いですね。一見すると困った行動に見えますが、彼のやる気の裏返しかもしれませんよ。

だいすけくんが、なぜ、この行動をするのだろうと考えることが大切なのですね。だいすけくんの学習へのやる気を認めながら指導したいと思います！

### 【資料】

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

「自閉症のある子どもの自立活動の指導について考えよう！」より抜粋

子どもがどのような時に困難さを示したのか、どのような場面で主体的（意欲的）に学んでいたのか、それらの理由を振り返ることは、子どもの実態をより深く理解することにつながります。

子どもたちの中には、自分の思いをうまく言葉で伝えられない子どももいます。そのような子どもたちへの「傾聴・受容」を通して、子どもの行動の意味を考え、言語には表れない感情を受け止めていくことで、次の「支援」へとつなげることができるはずです。